



No. 182

ティークレイク

## Tea Break

ステート・ハント

会員 中村 至

アメリカ合衆国には50の州があり、その外にワシントンDC（特区）がある。州ごとに憲法を持つほど自治意識が強く、アメリカはいわば合州国だという人までいる。この50の州（とDC、従って全部で51）に行ってみようと思ったのは、訪問した州が15を数えた頃だった。当時話題になった映画『ボーイ・ハント』に因み、このプロジェクトをステート・ハント（州狩り）と呼ぶことにした。

このステート・ハント計画に米人弁護士M氏が乗ってきて、二人でニューイングランド・サミットをやるということになった。ご存じのようにニューイングランドとは米国北東部の6州を指し、建国当時英人が入植したためこの名があるという。パーリントン（バーモント州）にまず飛び、ボストン（マサチューセッツ州）までレンタカーで4州を狩ろうというわけだ。黄葉（紅葉は少ない）の季節を狙ったのだが、初めのうちは先週までよかったのと言われ続けた。だが大統領予備選挙で有名なニューハンプシャー州に入って強風で知られるワシントン山を眺めながらその南部まで下がると、見事な色づきとなった。ラブホテル的な小さな宿に泊ったのだが、その定義をご存知だろうか。日本での話だが、共用設備の比率が少ないことだそう。投宿すると人となるべく顔を合わせず事に及ぶというわけだ。メイン州ではウイスパリングオイスター（囁く牡蠣）という店を見つけ、生牡蠣を堪能した。

飛行機で上空を飛んだだけでは行ったと言えぬが、寄航すればその州は狩ったとする。アーリントン（バージニア州）の米国特許商標庁で度重なる米国特許分類の改訂に審査官は戸惑わないかと聞いたが、各人の担当分野は広くないと一蹴された。次の予定がシカゴ（イリノイ州）で開催されるPIPA（太平洋知的財産協会）の会合

で、月曜に始まるので週末が挟まれる。同地のナショナル空港でチャールストン（ウェストバージニア州）を経由するシカゴ行きに搭乗しようとする、シカゴに行くのなら直行便に余席がありますと余計なことを言われる。そろそろ老眼が気になる目でOAG（世界航空時刻表）の細かな数字を探し、ようやく見つけた便だぞ。

同州はもともとバージニアの一部だったが、南北戦争のもつれから別の州になった由。着陸の際、一向に平地が現れないまま高度が下がり怖かった。山岳地にあるこの空港の建設にあたっては「7つの丘の上部をすべて削り、丘の間の谷にその土を埋めたのであった。動かした土砂は当時、パナマ運河建設に次いで史上2番目の量であった」（ウィキペディア）。

この寄航ルールで稼いだ州もある。ニューヨークを出たフェニックス（アリゾナ州）行きB727が、まだ予定時刻にならないのにどこかに着陸した。聞いてみると偏西風で燃料を予想より多く消費し、給油のため予定外のナッシュビル（テネシー州）空港に降りたという。機中で待機しただけで同地が発祥というカントリーミュージックを聞く暇もなかったが、思わぬ儲け物をした。空中給油でもされたら1州損をするところだった。

ロードアイランド州は米国で面積最小の州だが、それでも滋賀県と同程度だそう。州都プロビデンスにベンチャー企業に投資する人がいると聞き、訪問した。まだ未成熟の発明に融資して回収の見通しが立つのか聞いたが、投資家には投資家の理論があるという。判断基準を話してくれたが、まだ時差がとれず大半は夢うつ。

月曜にミドルタウン（オハイオ州）の鉄鋼会社に行くこととなり、日曜夕方にシンシナティーに飛んだ。ここもオハイオだと思っていたら、空港は川を挟んだケンタッキー側にあった。しめた、1州儲けた。フライドチ

キンも口にせずタクシーでミドルタウンに行き、喉が渴いたのでビールをと思ったが、同州はセミドライステートとかで日曜はアルコールが提供されない。やっと Root Beer なるものを自販機で見つけたが、これが Dr.Pepper® のような清涼飲料でがっかりした。品質誤認だぞ（商標法3条1項3号）。

アルバカーキ（ニューメキシコ州）発オクラホマシティー（オクラホマ州）行きの Southwest 航空は、同社が格安航空のため IATA 発行の世界共通のはずの航空券が通用しない。改めて同社の切符を買ったが、乗り継ぎが悪く待たされた。我ながら無駄な金と時間を使ったものだと思う。

ミルウォーキー・ブリューワーズは、当時アメリカン・リーグに所属していて1982年ナショナル・リーグのセントルイス・カージナルスとワールドシリーズを戦っていた。カージナルスが大敗した翌朝、セントルイス（ミ

ズーリ州）の空港に行くと、野球って何ですかという雰囲気。ところが Ozark 航空という会社の便でミルウォーキー（ウィスコンシン州）に着くと、一変して仕事中的女子空港係員まで野球帽をかぶってお祭り気分。

1988年2月、最後に訪れたのはバーミングハム（アラバマ州）。アラバマ大学の特許出願で代理人を勤めたのは後のことで、この時は何の用もなかった。EPCOT center のあるオーランド（フロリダ州、意外に寒かった）から、Braniff Express で飛んだ。最初のアラスカ州訪問（そのころシベリア上空が飛べず、欧州便はアンカレッジで給油した）から数えると、制覇まで26年かかったことになる。

達成後当時のレーガン大統領宛にこうした一部始終を書き送ったが、梨の礫。全州制覇の話など、ホワイトハウスでは珍しくもないのだろう。